

(2) [1]改革

… 信仰心の自由（原始キリスト教に回帰）。

カトリック（旧教）に対するプロテスタント（新教）成立

1 [2]（16C、独） 『キリスト者の[3]』

a [4]カ条の意見書で宗教改革開始（カトリックによる[5]状販売に反対）

b [6]主義…「救いの知らせ」を信じ、罪を悔い改める

c [7]義認説と[8]中心主義

… 人が義とされるのは、ただ信仰による

宗教的なただしさ

∴ 教会の権威を否定 cf. 自由意志は認めない

d 万人[9]主義

… 全ての人は直接神とかかわる

∴ 聖職者の権威を否定

e 職業[10]観（職業神授説）

… 全ての職業は天職 cf. 万能人でなくてよい

cf. [11]（16C、ネーデルラント<今のオランダ・ベルギー>の人文主義者）

— 過激を嫌う平和主義者なので、宗教改革には中立的態度

『^{ぐしんらいさん}愚神礼讃』… 教会の腐敗や王侯の悪を風刺して、宗教改革にも大きな影響

2 [12]（16C、仏出身→スイスで活躍）

a 『キリスト教[13]』

b [14]説… 魂が救われるか否かは、神が予め決定。

人間は神の栄光のために生きる

神の意志を実現すること

→ 職業召命観と結びつき、禁欲と勤労を奨励し、営利活動と蓄財を肯定

比：カトリックでは清貧が美德

∴ [15]主義経済の精神的土台に

個人（民間人）が利益を資本（もとで）として拡大再生産を行うことによって、社会全体が経済成長

cf. マックス＝[16]（19・20C、独の社会学者）

『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』

… カルヴァンの思想が資本主義経済の精神的土台となったことを明らかにした

MEMO etc.